



平成26年 3月15日

2〜4面	公民館研究集会
5面	みんなで仲良く 青年の家だより
6面	スポーツ・情報 まつかわ大学
7面	なかまたち・すぼっと こどもの詩・俳句・短歌
8面	声・視点・ペンペン草



まつかわ百景 ⑦⑧

「松川東小学校」

平成26年度を以て中央小学校に統合となる東小学校

平成27年3月31日で、松川東小学校は松川中央小学校に統合になります。昭和35年松川町と生田村が合併して、生東小学校が松川東小学校になり、今年で54年目を迎えています。現在の校舎は、昭和56年から57年にかけて、全面改築が行われ、校舎の下には、電柱のような太いコンクリートの柱が何本も打ち込まれているそうです。

そんな、校舎の昇降

口を入ると、先ず目に入ってくるのが、入り口の上に飾られた「美しく生きる」という書です。これは、松川町元教育長鋤柄郁夫先生の書かれたものです。そしてその奥にある大きな天体望遠鏡、生田の地に生まれ「飯田に大書を」を実現するため

主張

東小学校 最後の一年

史の長い学校とはいえ、よくぞこれほどの賞を取ったものだと感心させられます。その時々先生の方そして子どもたちの「自然研究」「全校合唱」にかける熱い想いを感じるとともに、その深遠はどこにあるのだろうと頭が下がります。このような歴史ある東小も、昭和30年代に200人を超えていた児童数が、本年度は16名になりました。過疎化と

少子化の流れの中、地域の皆さんが何とか歯止めをかけようと活動してきましたが、いよいよ来年度、9名になる東小の最後の時がやってきてしまいました。残された1年を、9名の子どもたちと職員で今まで以上に充実した年にするために、今計画を練っています。一つ一つの行事を意味あるものにし、もちろん今までの活動も大切にして、保護者の皆様地域の協力を得て、12月予定されている閉校式典につなげられたらと考えています。学校が閉じることは大変重いことですが、その重さを十分受け止めますので、松川町の皆様宜しくお願いたします。

に一生を捧げた宮澤芳重さんが、寄付を重ね、飯田高校の屋上に設置されていた、口径15cmの天体望遠鏡です。この絶対的な威圧感、訪れた方の注目を浴びてきました。更に、廊下に入ると、沢山の賞状とトロフィーがあります。本校2つの特色ある活動「自然研究」と「全校合唱」で県や全国で入選したものです。歴

松川東小学校長 高森 広治

公民館研究集会

公民館で結び、若者と地域をつなげる」

2月23日(日)に行なわれた研究集会では、テーマにそって松本大学の白戸洋教授による話題提供ののち分科会・報告会を行い、最後に白戸教授から今後の方向付けをいただきました。

話題提供

「公民館で学び 若者と地域をつなげる」

白戸教授のお話は「まちづくりって必要でしょうか？」という衝撃の発言から始まりました。自分の悩みで寝られないことはありますが、まちづくりを考えて寝られない人はいないと思えます。まちづくりとは、自分を原点とどう生きていくのかを仲間と考え、それを地域に広げていくことであると話されました。



白戸教授

次に、若者にとつての地域とは何かを次のような事例を挙げて話されました。「ある年、松本大学の学生に駐車違反のペナルティとして大学前の一般道の雪かきをさせたところ、お茶とお菓子をもらい褒められた。そうしたら次の日も自主的に雪かきをさせてほしいと言ってきた。」この事例をとおして、若者は期待され、認められて成長する。そのためには、コミュニケーション

をとることが必要で、伝えたい意思・相手を持つことが大事である。そんな機会を地域でつくってあげたいと話されました。続いて、地域にとつての若者について話をされ、ライフスタイルが変わってきている現在地域社会は、昔のようには戻れなくなっている。そこで地域の再構築を行うためには、若者の力が大事であると話されました。そのため地域の中で、できるだけ多くの人と出会う場をつくること、地域と若者をつなげることが大切になる。それが公民館としての大きな役割ではないかと投げかけられました。

分科会

スポーツを通じた 若者の地域活動への参加

最初に事例報告がありました。中央公民館からは、全国の小中学生の運動量と松川町の小中学生の運動量を照らし合わせて数値の発表がありました。

スポーツ推進委員会の取り組みとして、体力向上教室とコオーディネーションントレーニングの導入の話があり、実際に参加者で体験してみました。

大島地区協議会からは、参加者が減少している地区公民館行事について資料の読み合わせをしました。

次に「若者が参加しやすいスポーツ大会・公民館行事にするためにはどうしたらよい

か」について2つのグループに分かれて意見交換をしました。

「様々な地域の事情があり、何かを企画すること自体が難しい」「スポーツが多様化している」「公民館として何に力を入れていいかわからない」という意見が出されました。また「ペタンクを取り入れている。手間も世代も気にならないのでおすすめ」「5人くらいの人少ないのでできるスポーツ(輪投げ等)で、少子化でもできるようにしている」など、世代を問わず誰もが気軽にできるスポーツを取り入れているという各地区公民館の工夫も多く出されました。

分科会

リニア新幹線を通じた 若者と未来

冒頭に、まちづくり政策課からの話題提供がありました。主な計画や、工事関係の課題、町としての考えを聞くことができました。さらに深津町長も参加されていて、より具体

的な思いも聞くことができました。その後、分科会の中を4つのグループに区切りグループディスカッションを行いました。

第51回 松川町

テーマ 「続・まちづくりと公民館」



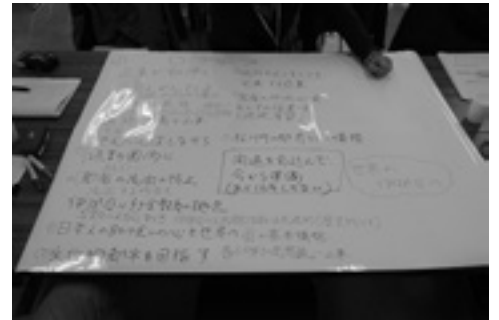
活発な意見交換が行われました

『リニアによって若者・地域にはどんな変化があるのか考えてみる』という議題から始まりました。参加者からは、人口の増減、環境、観光、文化、公民館の関わり等と様々な角度から意見が出ました。駅周辺だけでなく、伊那谷という自然、文化をアピールできる最高の機会だという事でした。特に印象的だったのが、リニアの駅ができることは、イコール都会化することではないという事でした。

分科会

若者が公民館行事に関わるための環境づくり

最初に松川高校美術部と公民館社会部が共同で活動した昨年のデザイン（壁画）プロジェクト、そこからの流れで今現在進行中のオブジェプロジェクト。大学でのボランティア活動から感じた地域活動の在り方。松川高校と駒ヶ根工業高校の生徒が活躍した上野井地区公民館の演劇公演。公民館行事にボランティアとして参加したらスタンプカード



ホワイトボードに意見をまとめました

ことです。伊那谷の持つ自然、文化、地域のつながりを大いに世界に向けてアピールできるチャンスをは是非とも生かしていけたらと思います。

地域とのつながりに重要な役割をもつのが公民館。本館も地区館も若者の力を求めている、事業の手伝いで参加してもらおうのではなく、自分達がやってみたい事の計画立案をし、主役としてすすめてもらえれば最高ではないでしょうか？

公民館事業には、伝統行事などを高齢者が教えるという大人から子どもに対するものは多くあるようですが、その逆にも面白くないのではないかと？」などの若者が少ない原因の意見が出されました。「押し付けるのではなく若者に企画段階から関わってもらったらどうか」「企画を行って実行した自信が次の活動につながっていくのではないか」「児童、学生はもちろん親の世代への公民館の存在意義を知らせる事が必要」など、今後に向けて前向きな協議が行われました。

研究集会を終えて

各分科会に共通する地域と若者の「つながり」の大切さ。大切だとわかっていても、なかなか具体化させられないものですが…。

逆に若者が大人に教えることは無いようで、そのところを具体化させていくのも良いのでは…？





2月23日(日)に開催された「第51回公民館研究集会」において、中央公民館、各
地区公民館の活動にご尽力された19人が表彰されました。



米山 敏



新井 直彦



大場 将博



下井 正人



宮下 明弘



松尾 聡



間瀬 智一



岡島 一弘



杉山 律之



宮下 泰彦



坂井 良紀



森脇 進



南端 照雄



上久保晃成



平島 衛



松下 善幸



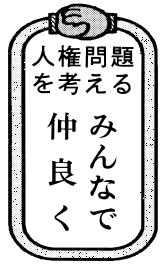
橋場 明



下沢 重利



荻原 太一



音がくかい
かまくら はるな

6月に音がくかいがありました。1年生は、「おおきなかぶ」のオベレツタげきをしました。みんなであうたをうたったり、げきをしたりしました。わたしは、うたう人だけど、大きなこえでうたえるかしんばいでした。でもげきをする人たちが、いっぱいれんしゅうして、じょうずになつたので、わたしもがんばりました。本ばんは、とてもいいえんそ

うができました。はずかしくても、がんばってみんなといっしょに「えがお」でえんそうすれば、せいこうすることがわかりました。

大なわ大かい
いちのせ しゅうえい

12月にぜん校大なわ大かいがありました。目ひようは、3ぷんかんで105かいとぶことにしました。はじめは、70かいぐらいしかとべませんでした。だから、れんぞくしてはやくとぶために、どうすればいいのかみんながかんがえました。「みんなでこえをだしてとぼうよ。」

と、クラスのおともだちがいいました。ぼくは、こえをだしてとべば、みんなのきもちが1つになるし、しゅう中できるから、いいかんがえだとおもいました。そして、目ひようをたっせいできたら、みんなで、空にむかっ

て赤白ぼうしをなげようときめました。

あつみれとらふらふらなつ
竹村 ほのか

大なわ大かいの日になりました。みんなでこえを出してとんだら、115かいもとべました。目ひようをたっせいできたから、みんなと赤白ぼうしをとばしました。みんながじょうずになわをとべるようになってうれいなおもいました。

2月に上かたぎりほいくえんのゆりぐみさんとこうりゅうかいがありました。こおりおにやじゃんけんれつ車をしてあそびました。わたしはゆりぐみさんに「いっしょにげようよ。」

といつて、手をつないであげました。そしたら、ともだちになれて、とてもうれしかったです。そのあと、1年生のきようしつで、わたしがそだてたあさがおのたねをプレゼントしました。大せつにそだててほしいなおもいました。

生涯教育のメッカ

松川青年の家だより

その二十九

森キャンプ〜冬〜

松川青年の家では、毎年、各季節に小学生を対象とした森キャンプを実施しています。今年の冬キャンプは1月25日(土)・26日(日)に7名の小学生の参加によって展開されました。

車そり両用車で遊ぶ

1日目、はじめの会が終了してから、めいめい木を使って乗り物を作りました。その乗り物とは、雪の上では竹を使ったそりになり、丸太の輪を装着すれば坂道を下る車にもなるという優れ物です。慣れない作業でしたが、職員に手伝ってもらいながらかつこい両用車が出来上がりまし



車そり両用車で雪面を下りました

た。午後は高森カントリークラブのご好意でお借りしたスロープで、最初はそりで滑り、後半は車輪を取り付けた車に乗って遊びました。そのスピード、車のゴトゴトという乗り心地、どちらも歓声を上げながら十分楽しみました。

五平餅とトン汁

1日目の夕飯の献立は五平餅とトン汁です。最初にみんな町内の商店へ行き、必要な材料を買ってきました。自分たちで自由に使える少しいお金で、食後のおやつや飲み物を買うのがとてもうれしうでした。買い物から戻ると、トン汁に入れる野菜やお肉を切ったりご飯をつぶして櫛へつけたりして夕飯づくりは順調に進みました。その後、みんな食べてみると格別においしかったです。

百人一首

夕飯の後、全員畳の部屋へ集まったの百人一首大会をやりました。「田子の浦…」と読むと「ハイ」と拾う。「これやこの…」とまた拾う。勉強しているらしくどの子も拾うのがとても速くて感

心しました。その後入浴を済ませて各部屋へ入って寝たようです…。なかなか夜中まで眠れ(ら)なかったようです。

大変だった山登り

次の日は自分たちで握ったおにぎりとカップラーメンをリュックに詰めて、近くの山へ登りました。

整備されていない登山道だったので、木イチゴのとげや木の蔓や木の根っこなどがあつて山登りに慣れていない子どもは大変なようでした。しか



集めた枝で焚き火

し、途中で姿を見せてくれたカモシカやノウサギにとても感動したようです。また、付近に落ちていた薪や雪の下から掘り出した杉の枝で火を焚き、お湯を沸かして作ったカッブラーメンと自分で握ったおにぎりの昼食はとくにおいしかったようです。今年も楽しい冬キャンプになりました。

だ まされる ころの 心 理学

「あれだけテレビや新聞で気を付けて騒がれるのに、まあだ騙される人がおるんだなあ。信じられん。私だったら本当の息子から電話きたって、お金無いで自分で何とかするんだって言えるに」

根拠の無い自信をもって豪語するひとりのオバさん。そのオバさんの根拠の無い自信が崩れる日が来たの

「皆さん、100円玉の絵を、裏表両面、正確に描いてください」

オバさんは100円くらいすぐにスラスラと「あれ?...100と桜の花が3個...だっけ?あとは...え...!!思い出せない、なんで!?

会場の皆さんも首を傾げながら...??正確に描けた人はいなかったのですが、先生の説明では、それが普通なのだそう。買物に行ってお金を出す時に、絵柄や数字を全て確認して、間違いないかと支払いをする人はいないだろうと。日常生活の場面ごとに見る物をみんな確認しながらでは、歩くことも食べ



納得のいくお話をされる菊池先生

です。

2月22日(土)
平成25年度まつかわ大学の第4講座が開かれました。

講師は信州大学人文学部准教授の菊池聡氏さとし。京都大学卒の認知心理学者です。

菊池先生は、丸顔の柔和な表情で難解な認知心理学をわかりやすくお話ししてくださいました。



100円玉の絵に挑戦する皆さん

することもスムーズにすまない。そうならないよう人間の脳は目で見た本当の世界を予想して解釈し、頭の中の現実(思い込み)をつくるのだそう。一瞬で行われる凄すごい機能で生活できているのだから、この思い込みと事実は微妙にズレていつてしまうのです。が、なかなか気付きません。そこで変な自信をもっているオバさんも、自分の知っている詐欺と違う事に直面すると、みごとに騙されてしまうとか。実際に騙された人の多くは「騙されない自信が有った」人だそうです。

これからは、アンテナを高めにはって、いろいろな情報を集め、大切な事は一人で決める相談するようにしなくては、と気を引き締めるオバさんでした。

ゴムボールと軽いラケットで、 1日で試合もできる! こどもソフトテニス 入門教室 を開きます

- 日時** 4月6日(日) (4月最初の日曜日) 14:00~16:00
- 対象** 小・中学生及び指導法を教わりたい大人の方
- 会場** 松川町運動公園テニスコート(雨天:4月13日(日))
- 主催** 松川町少年少女体操・スポーツ総合クラブ
- 参加費** こども1人150円(障害保険料、連絡費、ボール・ラケット) ボールとラケットは貸し出しです。

申し込み締め切り 4月2日(水)
指導者 主催クラブの指導者
申込・問合せ先 電話&FAX 36-5728 川又一郎

●公民館自主企画講座● 松川少年少女合唱クラブでは 一緒に歌う仲間を募集します

「松川にひびけ、子どもの歌声プロジェクト」でも大好評だった、子どもたちのあの歌声をぜひ、また聞きたい!というたくさんのお声があがったので、公民館では自主企画講座として、子どもたちの合唱クラブのメンバーを募集することにしました。地域や学校、学年を越えた仲間とすてきなハーモニーを楽しみながら、一緒に豊かな心をはぐんでいきましょう。

- ♪対象者 小学校2年生から高校生までの少年少女
- ♪練習日時 第2、第4木曜日 18:00~19:30
♪第1回の練習は 4月10日(木)です♪希望者はコンクールなどに向けた特別練習も行います。
- ♪練習会場 松川町社会福祉協議会 多目的ホール
- ♪講師 声楽家 堀内千鶴子先生・堀内千咲先生
- ♪入団金 1,000円(入団月のみ)
- ♪団会費 2,000円/月(さまざまな諸経費として、入団月から)♪初回参加日に集金します♪
- ♪お申込み、お問合わせ 松川町中央公民館 TEL 36-2622 / FAX 36-6620

なまかな

中高年の体力づくりにも！ スポレッククラブ



はげしすぎない ちょうどよさが人気

スポレックは、バドミントンのコートでできるテニスのようなスポーツ。公民館のスポーツフェスティバルでも紹介したこ

とがあります。昨年4月には松川町にこのスポレッククラブが発足しました。始まって1年に満たないクラブですが会員は30人近くと大勢です。こちらのクラブでは、まだ対外試合は行なっていないようですが、スポレックは全国大会があるほど広まっています。

テニスのようなスポーツですが、ラケットはプラスチック、ボールはスポンジで、誰にでもすんでひらいて」など、子どもたちにお馴染みの曲から、「瑠璃色の地球」など大人向けの曲まで、ハンドベルの素敵な音色と演奏に耳を傾けました。

また、ハンドベルを体験するコーナーでは、鳴らし方を教えてくださいました。

上新井地区公民館と上新井子ども会育成会では、2月22日（土）、上新井地区公民館において、地育力向上講座「ハンドベルコンサート」を開催しました。

例年、地育力向上講座では、テーマを決め講演を聞くなどの企画を行っていましたが、今年度は、趣向を変え、飯田下伊那を中心に活動されているハンドベルチーム「ベルフレンズ」の皆さんに出演を依頼しました。

当日は、親子連れなど約50人が、「さんば」「どうさん」「む

すぼと ハンドベルコンサート 上新井地区地育力向上講座

てもらった後、子どもたちだけで「きらきら星」を演奏しました。ハンドベルを両手でしっかりと持って自分の鳴らす順番を待ち、先生の合図で緊張しながらも一生懸命ハンドベルを鳴らす子どもたち。演奏が終わった

子どもたちもハンドベルに挑戦



子どもたちもハンドベルに挑戦

簡単に始められます。しかし、ボールを打つときの感覚は硬式テニスに近く、子どもが硬式テニスを始める前のトレーニングとして取り入れることもあり、プレイする人それぞれの実力で楽しみ方があります。大会では80歳以上の部もあり、生涯スポーツとして行なうこともできます。

松川町のスポレッククラブは、毎週月曜日の夜7時半から町民体育館で行なっており、毎回楽しく試合などをして気持ちよく汗を流しています。

後はみんな笑顔だったこととても印象的でした。

楽しく、そして素晴らしい生の演奏が聞けたハンドベルコンサート。知っているようで知らなかったハンドベルの魅力。皆さんも一度ハンドベルの音色を聴いてみてはいかがでしょう。

こころの詩

6年間の思い出を
俳句と短歌で
松川東小学校6年

3年生社会見学より

遠藤 久流美

飯田から 北の長野へ、ついにきた
とつても長い おかいたんめくり

1年生入学式より 大森 吉記

入学式 ちよつとこわいな 小学校
ドキドキしてた 初授業の鐘

6年生修学旅行より 小竹 遼

とつたー 言いたかつたけど 甘くない
夕つとロワイ 手から逃げ出す

4年生遠足より 清水 響介

お弁当 みんなで食べる 台城で
景色見ながら かじるおにぎり

3年生遠足より 橋場 瑤子

どついた 一人いないぞ 迷子かな
みんなを探した 教頭先生

6年生運動会より 本塩 亮太

運動会 組体操で がんばつた

5年生修学旅行より 松下 晃

夕飯の マーボー豆腐を 甘く見た
ほんとは激辛 舌がヒリヒリ

俳句

鋤柄 郁夫(宮坂)

羽生舞う流るゝ、「春の散歩道」

啓蟄や歩夢はパイプ飛び出して

暖かやかつぽう着きし研究者

紺青の海をとどめし目刺かな

轉りや色とりどりのランドセル

短歌

有賀 愛(北垣外)

塞の神の和合の姿立ちつくす
雪に丸みて吹雪ける中に

よどみなく夕べは雪の降りし
空今宵無数の星の耀う

かみ雪の今朝積もりいる餌箱に
柿の実の種残りていたり

自転車を押しつつ本を読み
帰る少年にゆるき坂は続きぬ

道に沿い石仏のごと残りいる
雪のかたちは春への兆し

雪のかたちは春への兆し

声

日・中文化教養講座が、公民館自主企画講座として、平成25年5月から翌年1月まで開講されました。

日・中文化講座を受講して

小川 光兵

貿易の2割ほどを中国に依存している日本と、技術革新を日本に依存してきた中国が、尖閣問題でいつ戦争になるかわからない状況になってきているのはなぜか知りたくて参加しました。

川又先生は、戦前台湾の農業灌漑用ダム工事を行った八田与一を紹介してくれました。日本政府の言いなりにならずに、現地の人たちのために工事の前に工事現場に住宅やお

店、学校や病院などを造ったので、人々は平穏な家庭生活をしながら働くことができた。ダムが完成して台湾は飛躍的に農業生産が向上しました。八田与一は、今でも台湾の人々に恩人として尊敬されているそうです。

日本政府は100年も前から欧米化を進め、中国やアジアを後進国と位置付けてきました。GDPを中国に追い越されて焦っています。また中国政府は国内の矛盾解消のため拡張政策をとり、日本敵視を進めています。日本国民は冷

静になって民間の友好交流を深めていきたいものです。

川又先生は、中国文化を理解する一つとして中国語の特徴について教えてくれました。これから少しでも中国文化を理解していければと思います。

1月25日閉講式では阿智村の満蒙開拓平和祈念館を見学させてもらい、戦争がいかに残酷で理不尽なものであったかを実感することができました。そして、戦争が迫っているこの時期、同館が平和を求めていくための、数少ないよりどころの一つになっていることを感じました。

もっと知りたい中国

北沢 広富

7歳のとき、日華事変が起きました。それまで毎日1個1銭の黒糖のお菓子を食べていたが、値上がりした。母は「1年生になったから我慢しろ」といった。このとき、中国を意識した。

兄が北支へ出征した。日本軍の暴挙を聞いたが、とてもこの紙面で話すことなどできない。また、村から満州に勤奉隊で参加した娘さんがいた。敗戦で奥地に残され、昭和50年に4人の子どもを連れて帰

村した。参加から帰国までの苦難の人生を聞いた。

2人の実話が、私の中国観を成している。だがこれは偏向の誇りを免れない。あの大きくて悠久の歴史を刻んだ中国である。講座で中国を涉りようしてみたいと思った。

閉講は残念だが、講師に妙味があつて楽しかった。

日中教養講座に参加して

松田 幸雄

「日中教養講座」という名称の講座が開催されるということがある方から伺い、どのような内容でどのように講師が話されるのか興味をもって、町の公民館講座に初めて参加させていただいた。

台湾、また中国で米作の技術指導に取り組んだ日本人、清里高原で酪農指導に取り組んだ米国人宣教師、さらには満蒙開拓の経緯等も何うなかで、それぞれの立場の違いを互いに認め合うことの大切さを改めて感じる事ができた講座でした。

講師の先生においては、多忙なかでの多様な資料等を用意され、丁寧な説明をいただいたことに感謝申し上げます。

2024年

2月は、大雪と冬季オリンピックが行われ、とても冬を感じたシーズンでした。

冬のオリンピックは、相手がいて競ったり対戦する競技より、採点や記録で順位が決まる競技が目された気がします。

期待されてメダルを取れなかった選手が何人もいたが、「結果がすべて」で終わってしまふ。しかし選手は、追いつけない：負けるとわかっているにも挑戦する。最後まで諦めないから、つい応援してしまいます。何事も、諦めないことは、成功することより難しいって事を人間は本能で知っているから、頑張ってしまう。応援してしまうのでしょうか。

「がんばれ」って本気で応援できる人は、頑張っている人だと言われます。これから暖かくなるにつれスポーツも盛んになります。スポーツ以外にも色々応援していきたいですね。

「がんばれ」って、自分に言い聞かせるつもりで

松下 佳史



まちの石仏 ③ 「道祖神④」(大沢北部)

夫婦の仲が睦まじくあることや、血が絶えてしまわないことへの願いが込められている双体道祖神。この道祖神は古くからあり、僧の形をしている。



公民館報 「まつかわ」 第 605 号 平成26年 3月15日

発行所 松川町公民館 登部
責任者 矢澤 公民館編集部
編集人 Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)